

友軍ノ所在

先期 新嘉坡 泊

春日 フリミン トル 泊

十月三日(水曜) 所在 瓊崖 シトニール スバ 索敵行動

天候晴 風加^ニ疎 氣圧最^ニ高^ニ 氣温最^ニ高^ニセ

行動

午前零時半 ワシントン 燈台ヲ 認メ 午前二時五分 カシタブ海

峽ニ 進入 午前七時十分 スバ 港外ニ 達シ 漂泊ノ 上中 掃海

具ヲ 使用シ 航路ヲ 掃海 セシメ 午前九時 スバ 港ニ 進入 今九

時 三十分 令 港内ニ 投錨

此、航海中 燃料消費額 左ノ如シ

石	消費額	現在額	消費額	現在額
七四六	一	二九	八八	二〇三
	行動用	行動用	行動用	行動用

航程 一千八百里

在泊船舶

新西蘭汽船 カル子

米國帆船 「フザルビシ」 (約五百噸)

警戒

當港艇中第一警戒ヲ施行シ當直艇ハ哨艇トシテ終夜
 機働艇一隻ヲ準備セシム

手戸行動

午前八時三十分向ケ出港早速十節午後二時モニューメイトロック
 シ航正横四哩ニ見テニューメイト群島東岸ニ迄北航
 索敵ニ從ヒタルモ異状ナシ終日隻影ヲ認メス
 友軍ノ所在

文類 新嘉坡相
春日 フリマントル有

スバノ港後受領セシ敵情等

一ノ港後予前十時半フイシー 總督ヤ ビツカム エスコット氏

(SIR BIRK HAMESCOTT)ヲ其ノ官邸ニ訪問シ諸情報

及今日迄ノ経過ヲ聽取ス 總督ハ本職ノ為メ元月五日

ワカヤヲ捕獲セル短舟「セシリー」(CECILIE)ヨリ押收セル

日記、航海日誌ノ抜萃翻譯文及捕獲顛末寫シ

準備シ且概要ヲ説明セリ 總督ニ就キ知り得タル

情報要領左ノ如シ

(一)九月二十日ワカヤニテ捕虜トナリシハ「ローダー」シアドラー

ノ指揮官ト思ハル「ルク子ル伯爵」(COUNTON LUCKNELL)

0789

及士官ニ、下士官ニニテ之ヲ捕虜トナシ得ルハ實ニ
間髪ヲ容レズ全ク天佑ト云フ外ナシ

四) 母船「アドラー」ハ八月五日ソサイテイ群島西端モポリア

(MOPEHA)ニテ難破セシカ如シ

ハ) 捕獲短舟内ニ海圖測器等航海要具一切ヲ

搭載シ又機關砲一門手擲爆彈等銃ヲ武装セリ

ニ) 短舟ハ今尚ロカヤニ留置セルモ捕虜ハ現ニスバ監獄

ニ拘禁中ニシテ本日午後四時頃新西蘭ニ送致ノ豫定

ナリ

ホ) 諸武録ニ見ルモ右遠征隊ハ八月下旬ク島ニ寄港

セモコト疑問ノ余地無シ

ヘ) 九月十四日海上ヨリ探照燈ヲ以テ照射セル者アリトノ

報ハ虚報尤カ如シ

(ト) 當地沿岸航行船アムラ (AMRA) ハ去ル十月一日ヨリ

ラウ群島 (LAU GROUP) 及附近島嶼ニ他独人

上陸ノ形跡ナキヤシ確ル爲メ現ニ巡航中ナルモ當隊

入港ニ付或ハ令船長又ハ水先案内者ノ必要アルヘキヲ

考慮シ一應召遣セリ明四日入港ノ豫定ナリ

(チ) 九月三日日發震セシフィジー群島他ノ場所ニモ外國人

上陸セシ形跡アリトノ情報ノ出所ハ九月三日左記ノ

事實アリルニ依ルル後取調中ナルモ今日迄要領ヲ

得ス

(一) スバ (SABA) ヨリレブカ (LEBUKA) ニ至ル陸震線六条

スバニ近キ處ニテ切斷セラル

(二) カキ服ヲ着用セル怪シキモノ五名スバ地方ニテ印度

人ニ道路ヲ尋テ去ルコトアリ

(1) シアドラシ乗員本部及乗補敷等沈帆船乗員ハ尚

モポリアニ残留セルモノト想像セラル

ニ向テ捕虜ハ本日午後四時及五時商船「タルネ」(TALUNE)

ニテ全部新聞聞ニ送致ノ豫定ニテ聞キタテ以テ一應之

會見スルハ或ハ情報ヲ得ル一助タレハキヲ想ヒ即時總督

ノ乗込ヲ得テ午後二時半旗艦筑摩ニ於テ先任者

伯野ルツク子ル少佐ニ會見セリ會見ノ際ニ於ケル

全官談話要領左ノ如シ

(1) 自己ハ「シアドラシ」指揮官ナリ

(2) 「シアドラシ」ハ火災ヲ起シタル以テ之ヲ放棄セリ

(3) 獨逸ヲ出及發セルハ昨年十月末ニシテ大回轉ニテ

擊沈セシ船舶乗員約二百九十名ハ本年四月一日船ニテ

リオジャ子口ニ送リ無事歸着セリト思考ス

- (二) 太平洋ニ進出以來六月ヨリ八月迄クリスマス島 (CHRISTMAS) 東方海面 (海面上赤道及西經一五三度ニ在リ) ニ於テ帆船三隻ヲ拿捕セリ中ニ隻ハ鰐手沈ミタルモ一隻ヨシラ (MANTA) ハ拿捕隨行セシメタリ
- (ホ) 太平洋ニ於テ獲物少キハ意想外ニシテ僅ニ前記ニ隻ニ過キス全所ハ帆船ノセーリングルトナル故特ニ之ヲ選定セリ
- (ハ) 右鰐手沈帆船ノ船員ハ約三十名ニシテ之ト又便宜ノ處ニ收容ス彼等ノ生命ニ關シテハ絕對ニ安全ナリ
- (ト) 太平洋進出後第一ノ目的地ハパナマ (PANAMA) 附近ナリシモ佛國船ヨリ「シアトラス」ハナマ附近ニ出現ストノ警電ヲ傳受セシニ依リ今方面進出ヲ取止メ第一ノ案トシテアリキーヤン (ALEUTIAN) 島方面ニ進出

0793

ノ希望アリシモ各方面ノ漢業帆船ハ多数ノ支那人
搭乗シ居ルヲ以テ拿捕スル處分ニ窮スヘキヲ思ヒ
差當リ第三案トシテクリスマス島東方海面ノセーリング
ルートニテ掠奪作業ニ從事セリ

(4) 元來為シ得ル濠洲東岸ニ進出ノ計画ナリシモ
拿捕帆船々長ヨリ濠洲東岸ニ日本軍艦策動
セルヲ聞知シ又無線電信ニテモ感知シ居ルヲ以テ
濠洲東岸進出ヲ断念セリ

(11) 八月中旬ヨリ南下一旦モピリアニ寄港十日余瑞珀
更ニクック島附近ニ至リ機ヲ見テ新西蘭東北海面
ノセーリングルートヲ荒探セシ考ナリシモ不幸ニシテ
コシアトラ山火災ヲ起セシヲ以テ萬事休ス乗員及捕獲
員ハ全部ヨシラニ移乗セリ目下同船ノ所在ハ

二七

0794

勿論語ル能ハス

(又) 而シテ自モハ部下五名ヲ率テフリツリニ進出シ

レヅカ附近ノゴゴラニ帆船ヲ拿捕シ某所ニテマシ

ニ合同 後隊員ヲ收容歸國シ捕獲員ハヨシラ

ニテ陸上ニ進出セシト計取セリ

(ル) レヅカ進出ハ最初ヨリノ計取ニテ捕獲船船長

ヨリレヅカニハ常ニゴゴラニ連搬船一二隻碇泊

セルトシ聞キ且今地ニハ独逸人居住セルトヲ兼

知セリ

(ク) シアドラニ装備ノ無線電信機ハ極メ鋭敏

ニシテ彗彗ニシテホルニ等ハ容易ニ傳受

シ得

(カ) 一般ニ船舶ノ無線電信使用ハ頻繁ニ過キ特ニ

軍艦ニ於テ然リトス 注意深キ無電傍受ヨリ
軍艦ヲ避航スルコトハ容易ナリ

(備考) 右コアドラシ船長ノ談ハ総督ノ準備セシ

日記其ノ他ノ記録ト合致セカス 鮮ナカラズ
然レトモ未タ之等ヲ閱讀スルノ暇ナクシテ
彼ニ會見シタルヲ以テ多ク之ヲ反問スルコトヲ
得サリシヲ遺憾トス

三、午後五時フイシー総督ヨリ左ノ通報ヲ接受ス

(一) サモア理事官ノ無電ニ依テ独逸掠奪船「アドラシ」
ノ乗員残部ハ本月六日夕ヒケヨリ入港セシ佛國

「クラーナ」型帆船「ルーリス」ヲ捕獲セリ

(二) 九月三十日附サモア理事官發無電 十日三日前
十時十五分接受セン 電報左ノ如シ

二八

0796

八月廿日 独逸 探奪船 シアトラーハモヒリア島ヲ
難破セリ

貴官ノ捕虜トナル全乗員及部下五名外残
ノ乗員ハ夕ヒキヨリ來航ノ佛スリーナ山型帆船
ヲ捕獲シ拳銃 手擲爆彈及機砲ヲ擄行
九月六日 何レニカ出帆セリ

出入船舶

新西蘭

カルク(三千噸) 本日夕刻 シアトラーハ 船長以下六名
ノ捕虜ヲ乘セ新西蘭ニ向ケ發

十月四日(水曜) 所在琉球
待後警戒

天候晴 風相南東 氣圧最低五五 氣温最高七四

平戸行動

午前二時十分豫定地矣。連ス何等異状ヲ認メス。依ッテスバ
ニ向針ス。連吹セル南東ノ貿易風ハ依然トシテ尚強シ

友軍ノ所在

支那 新嘉坡 右

春日 フリミント泊

索敵ニ關シテアムラ 船隻ノ報告

晨ニシララ群島及附近島嶼ニ獨人ノ上陸セルモノナキヤ

否ヤラ 確カニ為メ十月一日スバラ 發見セシ商船「アムラ」(AMURA)

ハララ 群島(LAN GROUP)ノ南部及ヌガラ (NGARA) モアラ

(MOARA) トーヤ (TOTOYA) マカ (MATUKA) 等ヲ偵察シ

スバニ歸到セシカ令船々長テイ(DAY)ハ一ノ異状ヲ認
メヌ又一ノ情報ヲ得サル旨本廠ニ報告ス
敵ニ關スル情報

一午前七時スイジニ總督ヨリ接受セシ情報

十月廿午後十時濠洲總督ヨリ受領ノ情報左如シ

サモア及アピア理事官經由ハカバエ 總督ノ通報ニ依テ独逸

掠奪船「アドラ」ハ七月乃至九月ニ亘リ「クレーナ」型米國

帆船三隻ヲ奪捕セリ而シテ令船ハ八月二日ソサイチー群島

ノ西方モピリア島ニ坐礁セリ

同艦指揮官ハ部下五名ト共ニ八月三十日 飛發動艇ニテ

同島ヲ出發セリ

「UNITED GIST」ト称スル佛國貿易用「クレーナ」タヒチヨリ
モピリアニ寄港シ九月廿日 飛發動艇ニ乗員ノ為メ

0799

捕獲せらる而ニテ彼等ハ小銃手擲薬聲及鐵砲ヲ塔敵
シ翌九月六日今島ヲ出港セリ

モピリアニ人豫テ捕虜トナリ居リシ土人七十名白人二十人
残留シ糧食及飲料水一缺乏困厄ニツキア出

給炭船ニ關スル件

午前七時フィジー總督經由濠洲總督ヨリ接受セシ通報

可給炭船「カイトシガタ」ハ月曜夕刻ウエトポート出港十月九日

午前スバ着ノ豫定必要ニ應シ今船ト會合ノ便ヲ得シタメ
全船ノ航路ヲ左ノ如ク指定セリ

一) 十月四日午後三時 南緯三三度 東經一七二度

二) 十月八日午前九時 南緯三一度 分東經一七七度 三) 四

當隊内地歸還ニ關スル件

午前七時海軍次官ヨリ左記内報ヲ接受ス

「左ノ通 船越大使館附近震照セリ御了知アリタシ

左記此際第一特務艦隊ニ八雲ヲ加ヘ同時ニ豪洲東岸
及新西蘭方面ヲ回艦隊ノ警備区域ニ入レ小栗司令官
ヲミシテ之ヲ統轄セシムルコト、シ筑摩平戸ニ隻ハ敵艦ニ對
スル現行動態終リタル後修理ノ為メ歸還セシムヘキ内意
ニ村人急ノ為メ英國海軍ノ意向ヲ復シ何令儀至急
返震アリタシ

捕獲物料

午前十一時半 フィンシー 總督本廠答訪ノ際捕獲短艇
「シセリ」ヨリ押收セシ海圖五枚 本年四月十日以降
太平洋ニ於ケンシアドラ」ノ航跡圖ヲ記入セル米版
「パイロットチャート」一枚短艇「シセリ」ノ航泊日誌天測簿

ヲ携帶本廠ノ図略見ニ供ス

右ヨリセリ山ノ群嶺海國ハフィジー (FIJI) トニガ (TONGA)

サモア (SAMOA) カーメデック (KERMEDEC) ヒン (ELLICE)

ワオリス (WALUIS) エニオン (UNION) フォニック (PHOENIX)

及オーストラル (AUSTRAL) 群島ノ全部並ギルビー (GILBERT)

ロー (LOW) 群島ノ大部ナリ

出入船舶

英國商船 "HIONA" (砂糖運搬船) メルボルンニ向テ出港

十月五日 (金曜) 所在 筑摩

天候晴 風加 南東 氣圧最 低高 三〇・二 氣温最 低高 七・一

平戸ノ行動

0802

前日來ニキーヘカードヨリ
フリーシーニ至ル海面索敵ニ從事
ス異状ナシ

友軍ノ所在

矢矧 新嘉坡泊

春日 フリント泊

敵ニ關スル情報

午前九時四十分ヒジー 総督ヨリ接受セシ情報

十日四時午後十時十分濠洲 総督ヨリ接受セシ情報存知シ

アピア 執政官經由パゴ 総督ヨリ通報ニ依ル

(一) 三名、獨逸士官及五十九名ノ碎ハ帆船ルーツニ乘シ

何レニカ向テモピリアヲ出港セリ

(二) 全船ノ要目左ノ如シ

ニ檣ノクレーナ山型佛國帆船ニシテ 登簿ノ噸數百

二十四噸ニ檣ニテ前檣大普通ノ前帆及後帆ヲ有シ
「フオール、ロワーマスト」及「メイントップマスト」間ニ「ステーション」
ヲ有ス

全船ハ長途ノ航海ニ適セサル考朽船ニシテ船体白色ニ
塗粧セラレ「モーターボート」及大型「カーフボート」ヲ有ス

本職ノ對敵決心

從來ノ諸情報及捕獲短艇「ヨセリ」ヨリ抑收セル参考諸
物件ヨリ綜合スルニ「ニアドラス」ハ八月二日モピリアニテ壁礁ハ
難破セルト確實ナリ而シテ當隊向後ノ目標タル「キル」ニ
ニ就テ考フルニ

一、ルーツニハ「ソサイテイ」群島貿易船ニシテ小型帆船ナルヘキ
ヲ以テ夜令機砲其ノ他ヲ以テ武装スルトモ他ノ大ナル
帆船ヲ拿捕セサル限り大ナル危害ヲ企圖シ得ルヘシ

三二

0804

二、コルデー区カ果ミテ如何ナル行動ニ出ツルヤ逆睹スヘカラス

モ大凡左記ノ何レカナルシ

(1) 指揮官ルック子ル少佐ヲ搜索セシトス事

而シテ不成功ノ場合恐ラタノ處置ノ何レカニ出ツル

ナラン

一、コルデー区ニテ飯國ヲ企圖スルカ

二、蘭領東印度ノ中三地带ニ適宜セシトスルカ

三、子ヤニア右海旧獨領ニ隱匿待機セシトスルカ

(2) 暫ク甲群島附近島嶼ニ齧晦シ徐ニ後圖ヲナス

カ

(1) 豫定會合處ニ直航スルコト

(註) 右ノ會合處ハ素ヨリ明ラカナラセトモ捕獲短艇ヲシセ

リトヨリ押収ノ米版「パイロットチャート」中特ニ

オーストラル群島ラバ島(RABA)ニ鉦華團兵ヲ施シ
 アリ而ミテルツク子ル少佐捕虜トナリ名後「アム」船
 長ノ勦ムル「ロイス」船ヲ斃後「ミア」船止乗員ハ
 短舟ニ分乗シ各方面ニ分テ帆船集捕ニ從事シ
 拿捕次第某所ニ歸リ全所ニ在ル殘員ヲ收容シ
 某會合矣ニテ他船ノ來集ヲ待トセシ七百語リ
 シヲ見ヒハ右ラバ島ハ會合矣ナリシニアラスヤト推定ス
 (二)當面ノ目的トシテ大型帆船ノ拿捕ニ從事シ之ニ移
 乗セントスルコト然ルニ現状ニ於テ「ト」ガ群島方面何
 等ノ異変ヲ聞カス近ク九月二十五日「バ」船發ト「カ」諸
 島ヲ經テ十月一日「ス」船到着セル英商船「カ」船「ト」
 (三)船長ノ談ニ依ルニ「ト」ガ群島ニ於テ一ノ異変
 ヲ聞カス又外國人上陸セシ形跡ナキヲ以テ強クテ

三三

全島ヲ搜索スル必要ヲ認メ又ソサイテイ群島方面ノ搜索ハ珊瑚礁間航海ノ危険ヲ伴ヒ而カモ其ノ獲物ハ斯ル危険ヲ冒スニ値セザルニナラス炭費ノ考慮ハ亦當隊ノ進出ヲ許サザルモノアリ斯ル如キハ定埠口ヲサイテイポイントトシテ如キ淺吃水ニシテ比較的航續力大ニ輕艦ヲ使用スルヲ便トス
加フルニ給炭船ノ到着ハ豫期以上ニ遲延シ十月九日ニ至ラサレハ到着セズ當時兩艦ノ燃料ハ(手戻十月六日入港ノ豫定ナリ)何レモ十節四晝夜余ニ過キスニテ十月十日迄約一週間ハ絶対必要ノ外出動先ツ不可能ナリサレバ其ノ間情報ヲ蒐集シ情況ノ変ニ應シ行動ヲ策定スルニ充テ余裕アルモ此際カイテイ又ハポイントトシテ進出ハ緊要ニシテ且當隊

0807

將來ノ作動ニ直接影響ヲ有スル所ナラテ以テ情報ヲ
具シ濠洲海軍省ニ令船ノ波達ヲ電報ニ依リテ令時ニ
海軍大臣及軍令部長ニ進出後ノ情報ヲ報告
スルコトヲ如シ

濠洲海軍省宛（ウリトシニハ電送）

一 今迄得ル情報並航向日誌海圖日記等
ヨリ綜合スルニシテアラハモヒリアニ擱岸難
破セシ事疑ナシ

二 船長以下捕虜トナリシ者ノ外令船乗員ハ
令島ニ殘留最近情報ニ依リテ其ノ乗員ハ
佛國帆船ヲ拿捕セリ

三 右新拿捕船ノ行衛ハ尚不明ナルカ令船ハ
船長以下ノ搜索行動ヲナスカ又ハ會合矣ニ

三四

0808

直航スヘシ

四月十八日以降七月十五日ニ至ルヨアドラ山ノ
航跡ヲイソキニテ記入セルハイロッドチャートヲ
見ルニラパ島ノ部ニ鉛筆圈矣ヲ附シアルヲ
見ルニ右會合矣ハラパ島ナリト推斷ス

四、新拿捕帆船ヲ以テ艦長ノ搜索ヲナストセハ
風向良尙好ナルヲ以テ此ノ附近ニ行動ニ居ルハ
然レトモ未手懸リヲ得ス

艦長捕虜ノ風聞ハ一般ニ知レ渡リツル
ヲ以テ此ノ事實談帆船ニ違スルコトナリ
其ノ豫定ヲ變ニテ道逃スルナラン

五、右ノ如キ状況ナルヲ以テフルーティス今後ノ情況
ノ變ハ寧ロ一、投機ナリ即チ案外容

易ニカタツクヤモ知レス成リ不得要領ニ長ク
 繼續スルヤモ計リス而シテソサイチー群島ハ當
 隊ニトリテ遠キニ過クルノミナラス暗礁莫在也
 海面ノ搜索ハ空母ハ難シトスル所依ツサイチー
 フアシトメ其地行動半至大ニシテ此水小ナル艦船
 ヲ救遣スバモラ根據トシ敵情ニ應シ南太平洋
 洋方面ニ出動セシメラシト貴有ニ提言ス
 六、シアドラハ四月十八日ケープホルンヲ西ニ過シ六七
 月ニ巨リクリスマス島附近ニテ米國「スクーナー」
 型主帆船三隻ヲ拿捕斃命シタリ
 七、捕獲短艇ノ推乃行セシ海圖左ノ如シ

フイチャー トシガエリス キルバート ケルマテック サモア
 エニオン クック及ソサイチー ローアーチペラゴ

ノ大部 但シモビリアノ海圖ヲ有セス
八 給炭船十月九日平戸十月六日着ノ豫定

海軍大臣ニ報告 (十月五日午前十一時十分迄)
軍令部長ニ報告
機密第七一號

今日迄ノ情報左ノ如シ

一 捕虜トナリシハヨアドラ山一船長航海長外四ニテ
航向日誌海圖其他ヨリ綜合スニシアドラ山ハ
八月二日ソサイデー群島モビリアニ擱岸難破
セシユト確實ナリ

二 全船ハ四月十八日ケープホルンヲ回六月六日ヨリ
七月二十三日迄クリスミス島附近ニテ米國帆船

三隻 "JOHNSON" "SLADE" "MANILLA" シ撃沈シ

八月一日モピリア島着ニ日出港ニ際シ遭難セリ

三、遠征隊ハ八月二十五日發動機装備ノ小救助艇

ニ搭乗クック島ヲ経テラフカニ直航九月二十一日

朝對岸ハワカヤニテ捕虜カトナリ目的ハラフカ

在泊帆船ヲ拿捕シ更ニモピリアニ引返シ残員ヲ

收容セリトスルニアリ今地ニ多數ノ獨人居住ス

四、十月四日バンコクヨリノ報ニ依ルハモピリアニ在リシ

隊員士官ニ以下約五十名ハ十月五日夕ヒナヨリ

寄港セシ佛國帆船(LUTEOST)ヲ拿捕前

記撃沈帆船乗員ヲ殺シ翌日出發行衝不明

武装ハ機銃手擲爆彈小銃ニシテ之レ今後

注意ヲ要スルモノナルモ今般ハ小型帆船ト推定

三六

0812

スルヲ以テ他ノ大帆船ヲ拿捕セザル限リ差シ克
危害ヲ企圖シ得ルヘシ目下要旨取調中
五船炭船延列九日着豫定其間尙情報ヲ
蒐集シ行動ヲ定メントス但シ右ノ情况ニ付テ
フィジー附近搜索ノ必要ヲ見ス

前記帆船ニ對スル作動人諸種考慮上當
隊ニテハ頗ル困難ナルモノアルニ付濠洲海軍省ニ
コサイエ又リラアントメノ進出ヲホントス

右報告ス

發送セシ文書通報

筑摩スバ着後當地総督ヨリ接受セシ情報其ノ他
必要ナル事項ヲ當隊機密第八號ノ一三ヲ以テ通報セシム
衛生

筑摩乗組海軍少尉中澤佑
盲腸炎ノ為メ本日
スバノイシ山病院ニ入院

十月六日(土曜)所在 筑摩 待敷
スバノイシ山港

天候晴 風加 雨 南東 三
气压最高 三〇・〇三
气温最高 七八

平戸行動

拂曉 ビケレス 島影ヲ認メ 午前六時乗連ヲ古節トナシ
午後一時スバノイシ山港外ニ達シ 今一時早メカ豫定錨地ニ
投錨 當隊ニ合ス

シドニーヨリノ燃料消費額左ノ如シ

石炭 七六九噸 重油 三噸 現在額 石炭 二六噸 重油 三五噸

支隊ノ所在

矢矧 新嘉坡 泊

春日 フリントル 泊

敵一聞えん情報

一、午後五時總督ヨリ接受セシ情報

在空リントル海軍先任官ヨリノ通報左ノ如シ

ワシントン 作戰部ノ報ニ依テ拿捕セラル米國帆船「スロド

船長ハ露天短艇ヲサモア群島ニ上陸シ独逸掠奪船

「シアドラ」カ米國帆船ニ隻ヲ擊沈シタル後モピア島ニ上陸

セシ願末ヲ語レリ尚独人乗員ハ尔後八月二日「シアドラ」ヲ

遺棄シ其ノ發動艇ハ機砲ヲ以テ武装シ糧食ヲ月分

ヲ携行新「コロ」列ニ從事セシ爲メ出發セシトヌタ

佛國帆船「ルー」テスヲ拿捕シ之ニ武装ヲ施シ何レニカ

出帆シ「シアドラ」ノ捕虜ハモピアニ送セ大穴船ニシテ

0815

困厄ニツ、アル事實ヲ語レリ

ニ海情報第五三六號（譯令即次長ヨリ通報右五分接受）

可在英大使館附武官ヨリ、來電、十月一日英國海軍ヨリ

受領セル太平洋探奪船ニ關テ情報左ノ如シ

ワイシ―島ヨリ、報告ニ依テ英國探奪船 SEADLER

ハ SOCIETY ISDS MOPEHA = 坐礁 乗員ハ八月二日同船ヲ

退去シ九月五日同地ニ於テ佛國帆船 L'UTEDGISTヲ

捕獲シ其ノ乗員及土人ヲ同地ニ殘シ同船ニ移リ同島ヲ

去リシモノナリ

左記米國帆船モ其ノ附近ニテ探奪船ノ為メ敗壞現セシ

各船長抑留セルヲ確實ナルモノノ如シ六月十四日シヨシ

ソシニ 六月十七日 BEAUFORT 七月十日 シシニ 叙

三、午後十時五十分豫州海軍省ヨリ接受ノ情報左ノ如シ

三八

0816

茲ニ於テモピア被留人員ノ救助セシメテ知ル

ワウエリトン海軍先任官ヨリ左ノ通報アリキリ

独逸掠奪船シアラ山ノ為ノ捕獲サレ露天短艇

ニテ遁逃 サモアニ上陸セル被奪捕船長ノ報告ニ

依ルハタヒテ総督ハモピア被留船長ノ人員ヲ救助セシ

敵情ニ關スル報告

新獨逸山要員其他ニ關シ午後五時至今海軍司令部

長海軍大臣宛機密第七ニ號スル如ク報告ス

ワウエリトン海軍先任官ヨリ左ノ通報アリキリ

前電機機密第七ニ號スル項ノ佛シクナー LUTELLEノ

要目左ノ如シ

総噸數一二四噸ニ播ニテ前橋大普通、縦帆

以外前下橋トクニ高橋間ニシテースルアリ

塗色白「モーターボート」及救助艇各一ヲ有ス者折船
ニシテ荒海ニ適セス乗員独逸士官三外五十九人
濠洲軍船收造ニ關スル件

午前二時濠洲海軍省ヨリ左記回電ニ接ス(暗号電ニ)
「貴電受領」サイエ「フアント」ハ修理及乗員交代ヲ為メ
收造セシノ難キヲ遺憾トス
無電ニ依リ附近航海中ノ米國汽船ヲ要シモヒリアニ
残留ノ弱五人長ヲ救助セント欲ス

當隊向後ノ行動

右濠洲海軍省ノ回電ニ依リサイエ「フアント」ハ當分スバ
方面ニ進出ノ見込無キヲ知り先ヲ以テ向後ノ行動ニ對シ
左ノ如ク腹案ヲ定ム

一、ルース「対る作動」ハ當隊ニテハ 諸種ノ考慮上
 不便多ク困難ナリ
 二、モピアノ残留員ノ救助ニ關シテハ 諸情報ヲ綜合判断シ
 彼等ノ安全ヲ確信ス（昔ヨリトシ海軍失任官ヨリモピア
 残留救助ノ通報ニ接ス）
 三、然リト雖モ現状ニテハ 當隊兩艦ノ引揚ハ尚早計ナラ
 以テ載炭後状況ノ要ニ即應シ得ル為メ一艦ヲ駐メテ
 フォイター方面ノ警戒戒任シ他艦ハ濠洲海面ニ歸到セム
 四、右警戒戒艦ノ残留期ヲ約一週間即チ十月中旬迄ト豫
 定スルモ尚一應濠洲海軍省ノ意向尙ヲ確メ若シ今
 省ニシテ軍艦ヲ令方面ニ派遣スル計画アルハ過度ニ
 延セ克限リ令艦ノ引來着迄残留セシメ之ニ
 警戒戒任務ヲ継承シ克後歸到セシム

而ニテ筑摩ヲ候留營戒ニ任セシメ本職ハ平テヲ率升
 十月十一日メルボーンニ日航ト概定シ八日ヲフイシ
 總督ニ通報スルト共ニ海軍有、意郷向ヲ偵議シニ即日
 「エシカウスター」ヲ當方面ニ派遣スヘキ旨回電ニ接セリ

十月七日(日曜) 所在 筑摩 平テ スバ 待機營戒

天候 風加東一南東 氣圧最高 三〇・八 氣温最高 七・五

友軍ノ所在

矢矧 新嘉坡泊

春日 フリマント泊

令事

牟田筑摩艦長ニ訓令 秋正六日十月七日

海 回。 軍

海軍

一、独逸ローカールニアアドラ山ハ八月二日ソサイテイ群島モロリア

島ニ擧率難破シ同指揮官以下大佐ハ九月二十一日

フィジーワカヤニテ捕虜トナレリ

右乗員ノ残部(士官ニ下士官五十九名)ハ佛帆船ルイテイニ

ヲ拿捕シ九月六日モロリアヲ出發シ以來今尙行衛

不明ナリ

ニ、氣身ノ當地ト我留英官寓ト聯絡ヲ保持シ當方

面ノ警戒ニ任スヘシ 別場ノ時期ハ特令ス

三、筑摩ノ給炭基地ヲスバトシテ分署行動中ノ通信基

地ヲスバ及シドニトス

四、本廠ハ平戸ヲ經テ十月十一日當差發メルボーンヲ

經テシドニニ回航濠洲東岸ヲ警戒ス

第三特務艦隊司令官山路一善

0821

設ニ關スル情報

ウエリントン海軍先任官ヨリ通報(十月七日午後五時四十分於スバ)

コシアドラシ乗員ハ佛帆船ルイライスニ乗船モビリアヲ退去

セリ 今船ニ無線電信機ヲ有セセトモ受信機ヲ準備

ストノ報アリ

給炭船ニ關スル通報

ウエリントン海軍先任官ヨリ通報(十月七日午後五時四十分於スバ)

コシアドラシ乗員ハ佛帆船ルイライスニ乗船モビリアヲ退去

ノ豫定

十月八日(日曜) 所在 北緯 30° 40' 待機 警戒

天候 晴 風 向 北 一 速 氣 圧 最 高 30.6 氣 温 最 高 26.9

録 四一 記

0822

友軍ノ所在

矢矧 新嘉坡泊

春日 フリミントル泊

敵情並艦隊今後ノ行動ニ関スル報告並通報

(一) 海軍大臣 報告 (十月八日午前九時於スバ)

一 今尚行動不明ナル「LANTERN」ニ作動スル為メ斬首ク筑摩

ヲ止メ警戒セシメ本職ハ平戸ヲ率テ濠洲東岸保

護ノ為メ十月十日發一且メルボーンニ回航十月

十九日全地着ノ豫定「サイケ」ヲポイントニ遠分動ス

何シモ修理中

二十月九日旗艦ヲ平戸ニ変更ス

三 LANTERNニ關スル情報ノ出所ハモロリアヨリ端舟

ニテサモアニ上陸セシ 數字沈船SLADON船長報告ナリ

モペリアノ残留船員ハ全部クヒケ官憲ノ為ノ救助
セラレタリ

四、本廠シアドラ山船長ヲ筑摩ニ引見同官ハ同船ノ
行動ニ付陳述スル處アリ先カ其ノ中ニ當隊ノ策動
ヲ兼知シ居リタル為メ遂ニ濠洲東岸ニ接近スルヲ
断念セル旨言明セリ

右報告ス

(一)右ノ報告ト同時ニ濠洲海軍省ニ左ノ如ク直報ス(新島蘭ハ元
司令官貴省ハ當方面ニ軍艦派遣ノ意志ナキモノト史料ス
主目的ハ已ニ去リ新島捕中ナルスクーナ山ノ如キハ小型
ニシテ大ニ危害ヲ加ヘサルニ然レトモ萬一ニ備エシカ為メ
筑摩ヲ數日間當方面ニ残留セシメ平戸ニ撤退セシ
メントス

二 獲艦ヲ平戸ニ渡更十月十日壹地發十月十九日メホシ
 着三四日帶泊後シドニーニ歸航豫定
 三 賞管下船船ノ現在茲將來ノ行動通報ヲ乞フ
 四 十月十日迄十一日約千五百噸載貨ノ豫定
 (三) 第一特務飛隊司令官 宛通報(十月八日午前九時スル)
 可筑摩十月三日平戸十月六日スバ着「シアドラ」ハ自二日
 ソサイテイ 群島モヒリアニ擱岸難破セリ今船々
 畏以下五名帆船拿捕ノ為ノフィジーニ遠征セシモ
 九月二十日レブカ附近ニテ捕虜トナリ其他乗員志官
 三下士卒五十九日六日モヒリアニテ佛「スクーナ」
 四の四ヲ拿捕出發再來行衛不明今船ハ二檣白
 塗一二回噴ノ先朽船ニシテ荒海ニ道セス右對ニ筑摩
 フ壹地ニ留メ警戒セシメ本隊ハ平戸率并十月十日

0825

發メルホーンニ回航ス十月九日獲艦ヲ手取ニ変更ス
濠洲海軍ノ策動ニ關スル通報

濠洲海軍有ハ右本域ヨリノ通報接受ノ後午後九時
令海軍省ヨリ左ノ如ク通報(回電)ニ來リ

十月八日貴電接受ス拙逸リトテ尚海上ニアルヲ

ソカイケートガ其他ノ群島ヲ搜索セト欲シエカウシ
タルニ對シラバウルヨリスバニ發進ル後右太平洋

諸群島ノ搜索ヲ已ニ命セリ

通報

機密第七四號 當隊内地歸還ニ關スル件 (海軍省官報附報)

機密第七三號 當隊行動ノ理由英國大使館附武官

宛貴電照ノ次第モアリ御參考ニ

一事實ニ於テ現行動ハ終了セリ

一五
四三
一

ニ筑摩ヲ留メスハ多少ノ難敵上ノ顧慮ト目下内院中

中譯ノ經過ヲ見ル為メ

三、平声メルホーン同航ハ濠洲海歸有ト打合ヲ兼子告別

ノ為メ

四、右ニ就キ電照ノ件受令場合何時ニテモ引揚得

令達

當隊機密第〇號

當隊ヲシテ高行動中当隊及スル電信所間

無電通信法ノ件 (決禁機)

出入船形

給炭形 カイタガタ (石炭二千四百六十噸) 新西蘭片着

第三特務艦隊機密第八〇號

大正六年十月八日於スバ

旗艦筑摩

第三特務艦隊司令官山路一善

當隊フイジ方面行動中當隊及スバ電信所
間無電通信法ヲ別紙ノ通定ム

(終)

0828

當隊及スバ電信所間無電通信法

一、送信時間(フイジール標準時東經百八十度ノ平時)

(一) 當隊各艦ヨリフイジール政廳宛電報

午前八時ヨリ午後十一時ニ至ル毎時間ノ三十五分過ヨリ十分間内ニ於テ波長一三〇〇米ヲ以

テ傳送ヲ開始ス

(二) フイジール政廳ヨリ當隊各艦宛電報

午前十時、正午、午後三時、午後七時、八時、九時、十時、十一時、十二時ノ十五分過ヨリ十分間内

ニ於テ波長六〇〇米ニテ傳送ヲ開始ス
但シ必要ナルトキハ隨時傳送ス

二、傳送法

送信時間ニ於テ呼出ヲ行フコトナク本文ノミ

ヲ傳送ス而シテ受信淺ク防ク爲メ次ノ三回ヲ
送信時間ニ再送ス

三、特定區別符

當隊及フィジール政廳間ノ通信ナルコトヲ指示
スル爲メ左ノ特定區別符ヲ信文ノ初メ及終リ

ニ附加ス

F G T G K

フィジール政廳ヨリ當隊各艦宛電報ナルコト

T K A F G

當隊各艦ヨリフィジール政廳宛電報ナルコトヲ指示ス

四、筑摩宛ナルヤ平戸宛ナルヤ或ハ兩艦宛ナルヤハ
信文中ニ指示シアリ又特ニ受信證ヲ要スル
場合ニモ其ノ旨信文中ニ指示シアリ

附、フィジール群島附近電信所要目左ノ如シ

局名	呼出符號	勢力	通信距離	波長	通信手
PUTA	TPD	5 KW	500 ^哩	600米	二人
LABASA	TPE	5	350	600	一人
TAVEUNI	VPF	1支	200	600	一人
PATU SATU	TQL	coil	150	600	一人
TUTUILA	NPU			600	
TULAGI	TQJ	5K	500	600	
VILA	HNT	5K	500	600	

0831

十月九日(火曜) 所在 筑摩 斯巴 待機 警戒

天候 晴 風 加^{北東} 氣圧 最低^{三〇・三} 最高^{三二・〇} 氣温 最低^{一八} 最高^{二八}

友軍 所在

支那 新嘉坡泊

春日 フリミントン泊

雷隊 旗船ノ変更 附合連

午前八時半 旗船ヲ筑摩ヨリ平産ニ移ス

雷隊 去令第七號 發布 船番號 変更ニ関スル件

「エニカ空介」ノ行動ニ関スル件

「エカワタシ」舞 々 次週 中 境ノ豫定 夫 筑摩 現任 務ヲ

令 船ニ 引 継ノ 後 撤 退 セ シ ム ルニ 付 到着 豫定 通 報 ヲ 乞 フ

且 日 森 洲 海 軍 省ニ 照 復 ヲ 發 ス

二五 四四

0832

十月十日(水曜日) 所在 抗摩 神給註特救警察

天候 晴 氣向 北東 氣圧 最高 三〇・七 氣温 最高 七・四

友軍 所在

矢矧 新嘉坡泊

来日 日 フリマントル泊

全事

當隊 日令 第九 號

當隊 辛丑 十月 十日 スバ 出港 午後 ムルシマ 經テ 十月 十六 日

シドニーニ 歸航 ニスル 行勳 豫定 ニ因スル 件 (功 章)

0833

第三特務艦隊日令第一九號

於西曆一九四二年十月十日
於又六換艦平戸

第三特務艦隊司令官山路一善

十月十一日ヨリ十月二十六日ニ至ル本隊平戸ノ行動ヲ別表
ノ如ク豫定ス

(終)

0834

第三特務艦隊平戸行動作業隊定表

日程	月	日	曜	行	動	作	業
第一日	一〇	一	木	スバ	發	午前八時	發
第二日	一	二	金				
第三日	一	三	土				
第四日	一	四	日				
第五日	一	五	月	航海(三五〇)	原速十二節		
第六日	一	六	火				
第七日	一	七	水				
第八日	一	八	木				
第九日	一	九	金	メルボーン	着	午後九時	シドニー
第十日	二	〇	土				
第十一日	二	一	日	メルボーン		時宜依り	載炭
第十二日	二	二	月				
第十三日	二	三	火				
第十四日	二	四	水	メルボーン	發		
第十五日	二	五	木	航海(三八〇)	原速十二節		
第十六日	二	六	金	シドニー	着	午後九時	シドニー

(備考) 一、右豫定ハ情況ニ依リ急遽変更ス
 二、時宜依リメルボーン碇泊日數ヲ変更ス
 三、シドニー着後直軍需品補充ヲ行フ

出入船舶

那威丸 船名 入港 直ニ將校ヲ收進シ 取調ニ所アリ

シモ別ニ異状ナシ

燃料補充

平戸給炭船「カイダカタヨリ」ハニ噸塔敷(内岸板積八噸)

十月十日(木曜)所在 平戸スバールメロリン

警務 警務

天候 晴 風 向 東北東

氣圧 最高 三〇・三五

氣温 最高 七・六

旗 艦 正午位置

南緯 一七八度 三四分

東經 一七八度 三六分

和

行動

午前八時平戸ヲ率弁スバ出港メロリンニ向テ原速十二節

午前十時五十分ベニガ島附近ニ於テ南五・度 西ニ定針西航ス

四五

0836

海軍省

出老ノ際 新出蘭商船カウリオークランドヨリスバニ老セン

トスルニ遺品シタル外 昨日復影ヲ認メス

出老ニ際シ 燃料現在額左ノ如シ

石炭千。八七噸 (内噸上中枝積) 重油三百五十噸

友軍ノ所在

矢野 新嘉坡白

春日 フリニストル者

報告送通報

千戸及筑摩等ノ行動豫定ニ關シ左ノ如ク報告ス

海軍大臣ニ報告 (十月十日午前九時於スバ)

口機密第七五號 千戸ヲ率テメルホーンニ向ケテ發

十月十九日着ノ豫定函後ノ行動十月二十四日發

十月十九日着ノ豫定函後ノ行動十月二十六日

0837

シドニー着筑摩ハ斯ヨク當地附近ヲ救急ニシドニーニ
會合ノ豫定「エシカラシキ」ラバウルヨリ當地ニ進出ス
ノ旨十月八日及令セラレタリ

尚本件ニ關シ第一特務艦隊司令官春日船長豫洲
海軍省「ワリ」ニ海軍先任官ニ通報ス

燃料補充

筑摩給炭船カイタシガタヨリ石炭七〇噸搭載

十月十二日(金曜)所在 平戸スバ

天候 半晴 風 向 南東 一 東南 氣 壓 最高 三〇・二九 最低 三〇・一七 氣 温 最高 三〇・二九 最低 二七・一

旗艦 正午位置 南緯 三〇度 五十分 秒 東經 一七三度 五十分 秒 稍 荒

行動

0838

朝來天候不良ニシテ日出時視界狭小南風漸次強吹
風向南東次テ東南東ニ變シ風力五乃至六横動約
十度ニ達ス

日没時強風依然トシテ衰ヘス視界亦狭シ終日隻影ヲ
認メズ正午ニユーカレドニア標準時ニ改メ時辰ヲ時間差

ラス
友軍所在

文島 新嘉坡泊

春日 フリマシトル泊

敵ニ關スル情報

カボ神機雷ニ關スル件

筑摩船長ヨリ報告

(十月十日午後突時於航海中)

ト濠洲松督ヨリ電報ニ依リ十月九日掃海(船)

0839

ガボ島燈台ヨリ南者西五里ニ於テ機雷一個アルヲ
発見ス

エニカウシター山ノ行動ニ關スル件

筑摩艦長ヨリ報告(十日正午午後更時於航海中)

エニカウシター山十七日(水曜)當港着ノヒ自統督ヨリ本職宛

通知アリタシ

敵ニ關スル情報

筑摩艦長ヨリノ報告(午後五時於航海中接受)

エニカウシター山海軍先任官ヨリ接受セル情報左ノ如シ

獨艦長ノ告白セル所ニヨルハ同ノ人ハ乗員モヒリアニ道

北ニタルコトヲ知レリフィジー島ニ陳述セシ事項ハ

虚偽ニシテ部下ヲ保護セシカ爲メノ目的ニ出テ

タルモノナリト云フアドラ山八月二日難破破船アリ

每 四七 頁

0840

捕獲後現況セメモ名コトヲ 認諾シ(以下一節不明) 乘
員抑留セラレシカ爲メナリ 瓜哇ニ航進スルヤモ計
サル事ヲ考慮セリ度トシテ(以下一節不明) 大砲小銃爆
彈着水及ム年分糧食ヲ有シ

令達

陸隊機密第五號ノ五ヲ以テ左ノ如ク電報訓令ス

牟田筑摩艦長ニ訓令

大正六年十月十三日午後三時
自スバ至メルルニ依テ機密第五號

一、帆船ロートイ区ニ關シテハ新報ナク踪跡尚不明ナリ

二、右ニ對スル作戰ノ爲メロエシカウタムハラバヨリスバニ

進出中ニシテ十月十七日スバ着ノ豫定ナリ

三、ロエシカウタムスバニ到着セハ筑摩ハ現任務ヲ引継キ

シドニーニ於テ本隊ニ合同スヘシ

右回航ノ途次又メアニ寄港スル事ヲ得

0841

四、本職ハ平テラ率テ十月二十六日シドニー着ノ豫定ナリ
五、行動ヲ豫定セハ之ヲ報告セヨ

第三特務艦隊司令官山路一善

報告

右電報副令ニ對シ筑摩艦長ヨリ午後十一時十五分
左報告ヲ接受セリ

日本艦ノ行動次ノ如ク豫定セリ

十七日エニカウシタルニ任務ヲ引継キ十八日出港ニ于日
午後ヌメア着ニ于三日朝同地發ニ于七日シドニー着

十月十三日(土曜)所在 平テラ スバールメ
天候晴 風向 東南 氣圧 最高 最低 七二
氣温 最高 最低 八

四八

旗艦 正午位置

緯度 一六九度 三六分 三〇秒

和

行動

朝來天候漸次快晴日出時視界明瞭午後五時頃より風力衰へ天候稍回復之日没時視界明瞭終日隻影ヲ認め友屏ノ所在

矢矧 新嘉坡泊

春日 フリマントル泊

敵ニ關スル情報

フリマントル 海軍先任官ヨリノ通報 (本隊ヨリ復問ニ對テ回答) (午後六時手付カ航海中)

ルツクナル 伯ノ告白ニヨリハ「ヨミラハ」砲没シ「シアドラー」ハ難

破セリ「シアドラー」裝備ノ二門ノ砲ハ乗員ニ依ツテ

爆沈セラシカカ如シ余ヲ推斷シヨハ「ルーテイ」ハ

0843

抑留ノ為メジマワニ赴クナランモピアヨリ救助サレシ
同盟國人ハ無難ニテ目下パカハルトニ在リ

報告

筑摩ノ行動ニ關シ左ノ如ク報告ス

越前支部長ニ報告(筑摩ヲメシスバヨリ有線電信)

日機第七六號「エカウシタ」十月十七日スバ着ノ豫定

筑摩ハ全船着後現任務ヲ引継ギ又メアヲ經テ

シドニーニテ合同ス豫定左ノ如シ

十日スバ發十月二十日又メア着十月二十二日發十月二十日

シドニー着

四九

0844

十月十日(日曜)

所在 筑摩

待機

天候 晴 風 加 東 南 東

氣 左 最 高 三〇・九

氣 最 高 六七・〇

旗 艦 正 午 位 置

南 緯 一 六 八 度 五 分

无

行動

日出時稍降雨アリ辰望約八哩風力昨日ニ比シ衰ハ

タシトエ動搖尚歇ス横動最大十二度終日隻影ヲ認

メス

友軍ノ所在

矢矧 新嘉坡 泊

春日 フリマントル 泊

筑摩ノ行動ニ關スル通報

濠洲海軍省迄ワシントン海軍先任官ニ通報(午後十時於航海中)

可筑等船長之職へ之訓令存如シ

十月十七日ヨシカウター山スバ着ノ上現任務ヲ同船ヲ継キ

十月十八日スバ發今月二十日又メア寄港今月二十三日同地

發十月二十七日シドニーニ歸着スハ也

五〇

0846

十月十五日(日曜) 所在 洋行
 天候 晴 風 向 東 北 東 氣 圧 最 高 三〇・二六 氣 温 最 高 七・七
 旗 艦 正 午 位 置 南 緯 一 方・二 七 度 東 經 一 五 〇 度 三 三 分
 行 動
 朝 来 風 向 東 二 度 北 共 二 風 力 減 少 天 候 回 復 シ
 海 上 平 穩 ナリ 日 出 後 時 上 視 界 明 瞭 終 日 復
 影 ヲ 認 メ ス
 夕 刻 風 東 二 度 北 連 吹 セ シ 貿 易 風 ハ 本 日 二 至 リ テ 其
 ノ 影 響 ヲ 受 ケ 弁 ン 二 至 シ リ
 友 軍 所 在

海 五 一 五

0847

文
春日

新嘉坡
ブリニトル

十月十日(火曜)所在
 天候晴 風 向 北東 北
 旗 船 正午位置
 南緯 三〇度 三九分
 東經 一五〇度 四四分
 氣圧 最 低 二二
 氣温 最 低 廿八
 行 旅 終 結
 和

0848

行動

日出時視界狭小ナリシモ午後ニ至リ天候快晴日没時
視界最モ明瞭トナリ夜半風向北々西ニ変ス終日復影ヲ
認メス

友軍ノ所在

文部 新嘉坡 發 フリントルニ白フ (二十日通報接受)

春日 フリントル相

燃料補給

筑摩 給炭船「カイシガタ」ヨリ二百七十噸載炭

十月十七日(水曜)所在 筑摩 スバリーメルボーン

天候中晴 風向北々西カ力二六 氣圧最高三〇・一〇 氣温最高七・三

五二

旗艦正午位置

南緯三四度一分三秒
東經一五三度三一分

稍荒

行動

日出時視界廣闊 正午原速力十四節ニ増加ス

日没時視界狹小夜ニ入りテ雲驟雨來襲ス故日復影

ヲ認メス

友軍ノ所在

矢矧 自嘉坡 航海中

春日 フリントル有

筑摩ノ任務引継

「エニカウスター」スバ入港 午前十時四分全艦長筑摩ニ

未艦 フイビー 方面 警戒任務ヲ筑摩艦長ヨリ

継承ス

0850

通報

(一) 本廠ヨリガレ島指揮官宛 (十月七日午前九時於航海中)

ロ同盟罷工現狀並石炭供給三箇ノ通報ヲ乞フ

當隊今日未石炭約二千噸ヲ要求スルコト、ナレバ計リス

ニカホ島附近掃海ノ進捗及發見機雷ノ數、位置通報

ヲ乞フ平テハ十月二十六日筑摩ハ十月二十七日シドニ着キ

(二) 右照電ニ對シ左ノ回答ヲ接受ス

ガレオン島指揮官ヨリ本廠宛 (十月七日午後七時於航海中)

ロ一石炭人夫技者足、高壓水夫及火夫ノ同盟罷工ハ尚著

着セス 載炭要具ハ充分ナルニ付 船員ノ手ニ搭載

セラルルハ 供給ハ困難ナラス 載炭三箇ニテハ豫メ御通知ス

ニ機雷四個ヲ發見セリ、メボーン行ノ船舶ハ出来ル丈ニ

百尋界外ヲ航行シツルアリ

五三二

0851

パス海峡ニ進入スルニハ百尋界線ヨリ南西微西ノ針路ニシテ
 デール島 (DEAL ID) 燈台ノ南ニ至リ先後ニユカロフ
 (SUGAR LOAF) ノ南ニ至リ航過シテ後南緯特九度
 十分東經百四十五度ニ至ルノ位置ニ直航基ヨリカボトシ
 右發見墩電ノ位置其他ノ要目不明ニ付左ノ照電ヲ
 發ス

本廠ヨリガラン島指揮官宛 (精製船中後(時)電)
 日回箇墩電ノ正確ニ位置及性能即チ新回別南報
 ラケシフ

パス海峡ノ新航路發令時日及發令後大型船
 通峽ノ有無及出來得ルハ墩電緊密經索ノ通程其ノ
 他ノ要目通報ヲ乞フ

十月十八日(木曜)

所在 拜摩

スバー
スバ
又メ

警告 戒

天候 險惡 風向

北東
西

氣圧 最高

30.5
30.3

氣温 最高
57

旗艦 正午位置

東南
緯一四九度二八分
經一四九度二八分

荒

行動

日出時 州島附近ニ達ス 現象極メテ狭小ニシテ陸影ヲ

認め能ハサリモ今島附近ニ於ケル機雷ノ危険ハ陸岸ニ

接近ヲ許サズ推測シテ南下バズ海峽ニ入り天候回復ヲ待テ

船位ヲ定ムトス

然ルニ天候依然トシテ変化ナク視界時トシテ三四哩ヲ出テ

サルコトアリ幸ニ午後四時十五分一英國汽船航舷及

航スルニ會シ無電通信ニ依リ全船ハメルボルン出港ナリル

島南方水道通過シトニニ向フモノナルヲ確メ其ノ回答シ

来リタル全船推測位置ニ依リ船位ヲ概定シテイル島

五三

南島水道中央ニ向ヒ測深ニ依リ艦位ヲ決定セト期シ
タルニ圖上測深記號疎ナルト海深ノ変化ニ特徴ナキトハ
夫多考ニ加具スルコト少ク加フルニ暮白色漸ク深リ細雨
之ニ乘リ視界益々狭小ナリトス依ツテ原速ヲ十四節
トナシ航行ス

午後八時推測ニテ列島燈台ノ二十一哩以内ニ達シ
タル豫定ナルモ全燈台ノ光芒ヲ認めルヲ得ズ原速ヲ十節
午後九時ニ至リ又六節ニ減シ危険ニ對シ百法手段
ヲ講ズ午後九時五分ニ至ルモ尚全燈光ヲ見ス依ツテ
推測位置全燈台ノ北七十度東九哩ニ於テ針路ヲ
反轉シ天明ヲ待ツトニ決ス
筑摩ノ行動

午前八時スバ出港ヌメアニ向テ原速十一節

0854

友軍ノ所在

矢矧 至 新嘉坡 航海中

者日 フリマニトル 者

機雷ニ關スル照電

本廠ヨリ濠洲海軍省宛(午後時早分於航海中)

ヨ 平戸 卯朝 午前十時 ホート 平リッゴニ 連スル 隊是 水先人及 船

地ノ件 依頼ス

發見セシタル 回箇ノ 機雷ノ 正確ナル 位置及 浮ルソシキ

島附近ニ 何物モ 發見セシタルヤ 否ヤ 天候不良ノ

為ノ 今地ヲ 通過セシト 缺ス 危險ナリト 思惟セラルヤ

或ニ 得六 十月二十日(土曜) 石炭 四百噸 搭載 致度 區

濠洲海軍省ヨリ 回電(十月十日 午後十時 三分 接受)

五 四 四

0855

可(前略)機雷艇系維索切断為四機雷沈置ノ位置
正確ト云カ利島燈台ノ北東ク東ニ理幸ノ地矣ニ於テ
發見セシクアリソコモソコトリー附近何物モ發見
セス但ニ掃海未齊南緯三九度ハ分東經一四五度
四二分ナル地矣ノ周圍十里以内ハ危險區域ト看
做ス其ノ海面ヲ避航スル他ハ危險ナラスト思惟

醫務

スバ病院ニ入院加療中ノ筑摩乗組中澤少尉ハ角
後ノ經過順當ナルモ未タ退院迄ハ尚ニケ月ヲ要スル
情勢カナル依リ後事ヲフイコトテ監督川ビツカムエヌト
氏ニ依頼シ筑摩ハ豫期ノ如ク本日午前八時出港セリ

0856

十月十九日(金曜)

所在 北緯 三十一度 東經 一四六度 五十分

天候 險悪 風 向 東 一 北 東 氣 圧 最 高 三 〇 〇 〇 六 〇 〇 氣 温 最 高 二 七 〇

旗 船 正 午 位 置 東 緯 一 四 六 度 五 十 分

和

行動

天候依然トシテ 変化ナク 雷鳴 霞光 日曇ニ 起リ 時ニ 暴

雨 來 襲 表 現 最 最 狭 小 ニ シテ 三 程 ヲ 出 テ ス 依 ツ テ 列 山 島

東 側 通 過 ニ 先 ヲ 先 ツ 艦 位 ヲ 決 定 ス ル ヲ 必 要 ト 認 メ

午 前 二 時 速 カ 八 節 推 測 東 緯 一 四 七 度 五 九 分 東 經 一 四 七 度 五 九 分 地 度 ニ 於 テ

北 西 へ 西 ニ 變 針 環 洲 大 陸 ノ 陸 岸 向 ヒ 圖 上 測 深 記

号 密 ナ ル 突 ニ 入 リ 測 深 ニ 依 リ テ 艦 位 ヲ 測 定 シ ツ 陸 岸 へ

接 近 ス 午 前 七 時 三 十 分 ニ 至 リ 途 カ ニ 巴 ス 海 峽 北 岸 ノ 岸

線 ヲ 認 ヲ 續 一 〇 〇 白 砂 ノ 岸 線 ヲ 模 糊 ノ 裡 ニ 認 認 ス

午 前 八 時 十 分 測 深 ニ ヲ リ テ 陸 岸 ヲ 距 ル 約 八 哩 機 位 南 緯

海 五 五 里

0857

三ノ度ノ手妻分三十秒 東經百四度三十分ト推定今岩線ニ
平行ニ西航速カヲ十由部トナス

午前十時五十分 船一隻ニシール島ヲ認メ船位ヲ確定

シ南航 シユガロフ島ノ南方ニ出テ更ニ北西航メルボリーニ向フ

翌天明ポートフクリツカ湾口ニ達ス豫定ヲ以テ午後二時ヨリ

半速九節ニテ航行ス 航行中午後八時丁林商船AMINE

午前英國商船WALTONO各反航スニ遭遇ス

友軍ノ所在

芝罘 瑞新嘉坡 航海中

表日誌 フリシトル船

通報

本廠ヨリ豫州海軍省宛(午前八時手妻分於航海中)

口 天候不明ノ為メ平戸昨夜ハス海峡海峡ヲ取止メ

0858

タリ明朝天明ポト子リカ湾口ニ連スル豫定水先人ノ
波遣及到着後直ニ載炭件御取處ヲ得度也

濠洲海軍者ヨリ回電(午後九時於航海中)

可昨日及本日照電受領 當港ニ於テハ船人夫ヲ得ルニト

不可能ナリ石炭船ヲ貴艦ニ横附ノ上「ウインケ」ヲ出スニヨリ
貴艦ノ兵員ニテ搭載セシ度ニ貴艦ニ於テ石炭搭載
開始ニ得ル時刻御通知ヲ得度也

(備考)本件後段ニ開ニ午後十時五十分發震明朝

十時半校橋着横附後直ニ載炭開始旨

回電ス

十月三日(土曜)所在

筑前 筑前 筑前

警戒

天候 險悪 風向 北→不定

氣圧 最高 五七六
最低 五七五

氣温 最高 六九
最低 六二

行動

日出時 陰面 展望不良 港口ニ達ス 水先人

乗艦 上針路 適宜 湾内ニ入り 午前十時 予カニヒル

ニ敷キ 留ツル

スバヨリ メルホーンニ至ル 燃料 消費額 石炭七百六十八噸

航程 二千哩

湾外ニ於テニ復 湾内ニ於テニ復ノ汽船ニ遭 過ス

筑前 所ノ行動

午後二時半 ワルホール島 (MALPOLE) 附近ニ達ス 更ニ西航ス

友軍ノ所在

文 矧 到 備 嘉 坡 航 海 中

春日 フリミットル

帝國艦隊濠洲方面警戒備關之通報

左記通報大海令第八十二號ノ三ト同時ニ受領ス

海軍次官ヨリ本廠宛 (十月十六日東京海軍省)
十月三日午前九時半 在在(在在)

ハ雲及筑摩手片ノ關ニ再越大使館附ノ返電左

如シ依ツテ

(一) ハ雲ヲ第一特務艦隊ニ加ヘ急速新嘉坡ニ進發セシム

(二) 第三特務艦隊司令官ヲシテ手片ヲ率テ本邦ニ

帰航セシメ

(三) 筑摩ハ當分現任地ニ留メ從前ノ任務ニ當テ

警戒備ノ件等ハ不日發令セラレ、警追テ第一特務

艦隊警戒備区域ヲ擴延シ其ノ艦ヲシテ筑摩ノ任務

五

0861

ヲ継業セシムル豫定ナリ

人名ノ為内報ス

(左記)

筑摩、平戸修理ノ為メ引揚件及小栗司令官濠洲
方面指揮延長ノ件ニ関シテハ英國海軍ヨリ左ノ意味
ノ回答アリナリ

濠洲及新西蘭方面ニ於テ日本艦艇ヲ小栗司令官ノ
指揮下ニ入ラシムルノ協同作戰上有利ナルヘシト信シ
又筑摩、平戸修理ノ為メ召還スルトキハ之ヲ代トシテ
一ニ隻輕巡洋艦ヲ同方面ニ行動セシメラレンコトヲ希望ス
敵艦ヲアトラシ乗員ヲ完全ニ始末スルコトヲ得タル
後トモ他ノ操奪船南太平洋方面ニ出沒スヘキナ
リ而シテ此ノ種對敵動作ニ對シテハ巡洋艦ヨリモ

0862

定呼口輕巡洋艦ヲ適當ト認ルモ米國ヤニ適ス艦艇
ヲ有セス又英國海軍モ目下ノ状況同方面ニ増勢力
スルノ余裕ナシトノコトヲ御諒察アラシコトシ乞

大海令受領

大海令第八三號ノ三 (十月十一日東京 併 廣
十月十日午前九時半 於九時ニ接度)

第三特務艦隊司令官ニ訓令

- 一、貴官ハ平テヲ率テ便宜本邦ニ歸還スヘシ
- 二、警備任務ニ關シテハ筑摩艦長ヲシテ直接第一特
務艦隊司令官及豫州海軍官憲ト氣服ヲ向シ
處理セムヘシ

十月十日 海軍部長 島村建雄

0863

通報

海軍次官ヨリ本職宛(十月二十日午後十時五分付)ニ
本日附入雲第一特務艦隊ニ編入セヨク十月二十日
文書

入後左記要旨ノ書類(九州海軍省ヨリ)接受

九月二十六日附貴官覚書第三五号受領貴要求ノ件
全部有線又無電ヲ以テ取計齊

本海軍省ハ貴官協同作戰及敵情ニ即應シ神速
ニドテ出動以テ現情勢力ニ與ヘシ多ク助力ヲ
感謝スルト同時ニ現行動ノ御成功ヲ祈ル(十月四日附)

(備考)本書面ハ最ニ九月二十六日付ニ急遽出

動ニ際シ給炭其他ニ関シ九州海軍省ニ通牒
セシ所覺三五ノ回答ナリ

0864

當隊行動変更ニ關スル報

本廠本日午前十時三十分豫州海軍省ヲ訪問本邦ヨリ
ノ訓令ニ基キ平戸本廠之ヲ率テ不日本邦ニ歸還築
摩ハ暫日時當方面ニ殘留現任務ヲ繼續セシムル件

通報ス

(備考) 豫州海軍省ハ本件ニ關シ英海軍本部ヨリ

一ノ交渉ニ接セス又一ノ内報ヲ受領シ居ラスト
云フ但シ當時クレスウエテ少将ハアブレードニ赴キ不在

燃料補充

平戸 載炭 六一四噸

在右艦船

豫州砲艦「コロモユ」(當地刊ホリ附屬練習艦)

英國商船 "TARCOOLA" "MESTRALIA" "HOBART" 外二隻
佛國帆船四隻

出入船舶

英國商船 "CANTARA" 外二隻出港

儀禮

名譽領事來訪

通信ニ關ル件

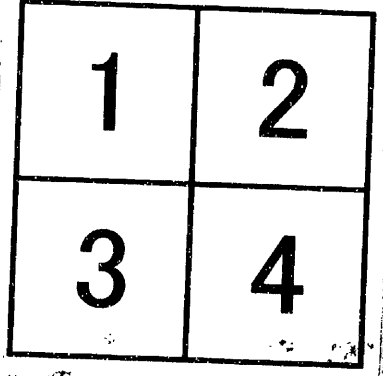
十月四日附文書ヲ英國支那船隊司令長官制定ノ

「コレエー」式換字暗號 十月一日ヨリ十月三十一日ニ至ルキ

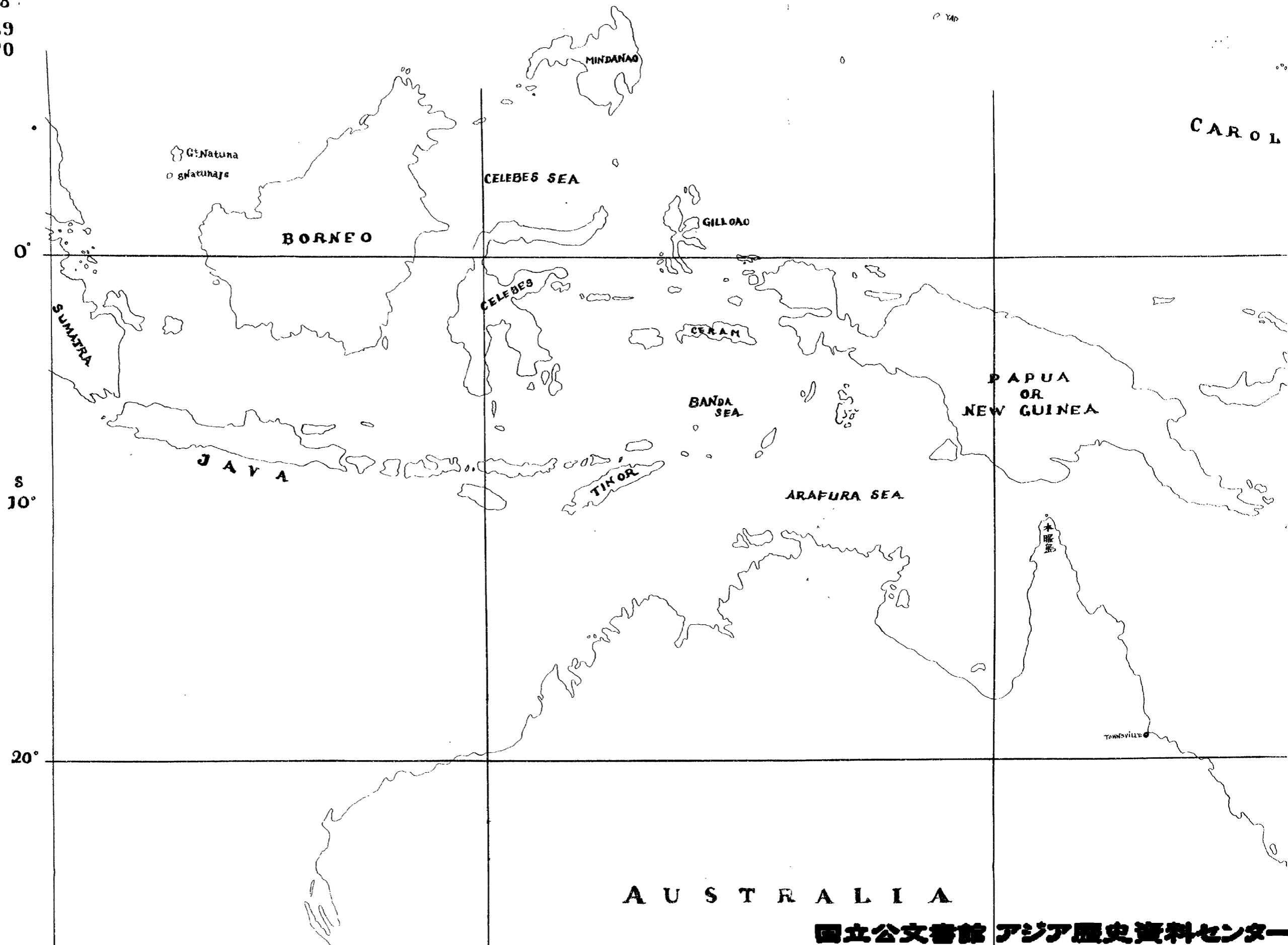
「ド」ヲ受領ス

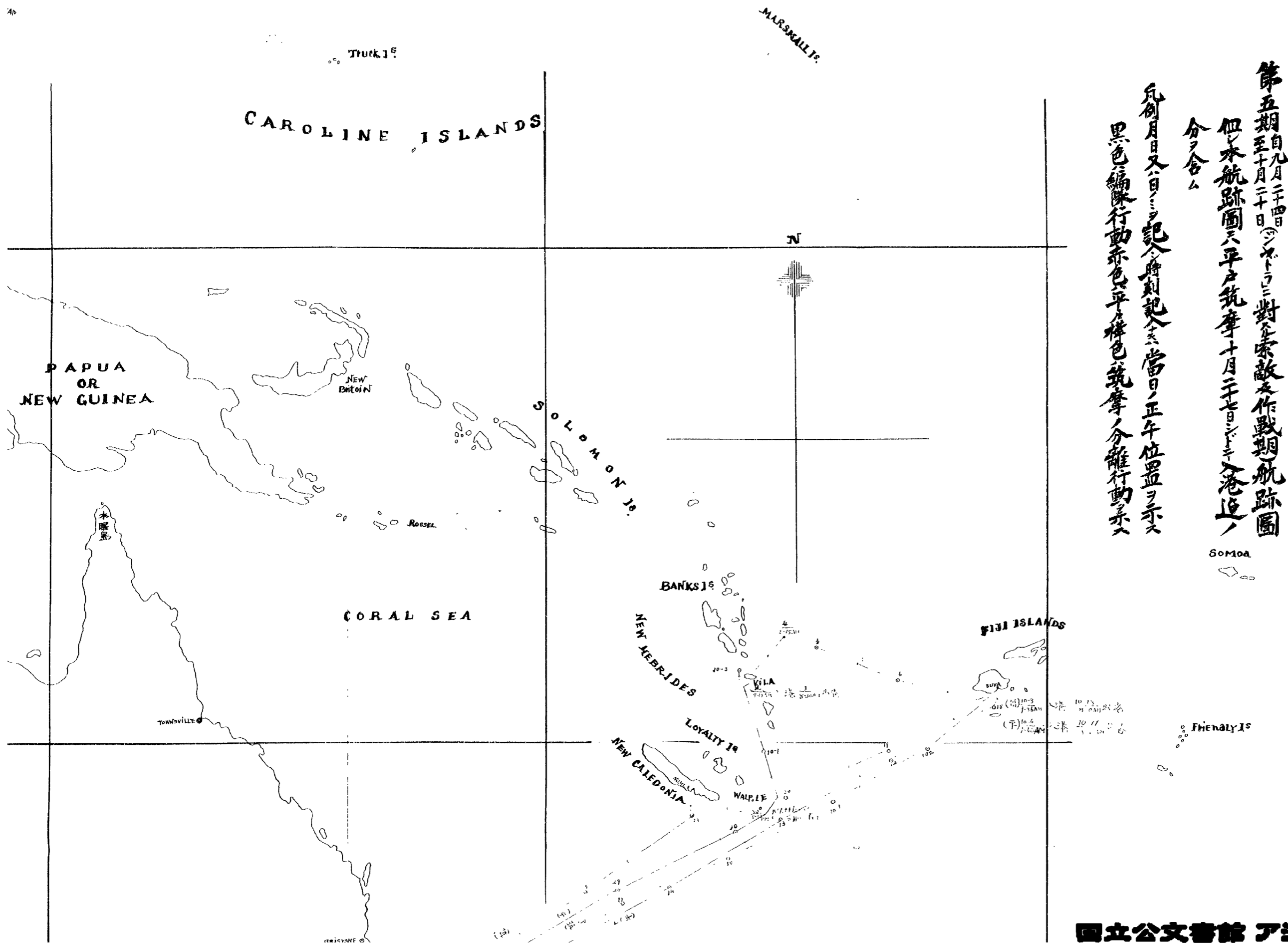
0866

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0867
0868
0869
0870





第五期自九月二十四日(シヤトラ)對索敵及作戰期航跡圖
 但本航跡圖(平)航跡(十月二十七日)港(追)分(合)ム
 凡(何)月(日)又(日)記(人)時(刻)記(人)當(日)正(午)位(置)示(示)
 黒(色)編(隊)行(動)赤(色)平(行)航(跡)分(離)行(動)示(示)

